



後中 ねさめくさ
下

Λ13
4471
3



羅^ら綺^き之^の為^を重^{ちゆう}衣^い如^に妬^{ねた}
 情^{なさけ}於^に棧^{せき}婦^に念^を原^{げん}
 弦^{げん}之^の在^あ長^{ちゆう}曲^{きよく}
 怒^{いかり}不^ぶ可^か言^{げん}
 圖^ず於^に人^{ひと}之^の伶^{れい}





隨
時



遙感
旅宿
之
棹者唯
聞
鷹
暗思浮遊之
有
意
後
雲釣者
不
得
魚

倚
年
吹

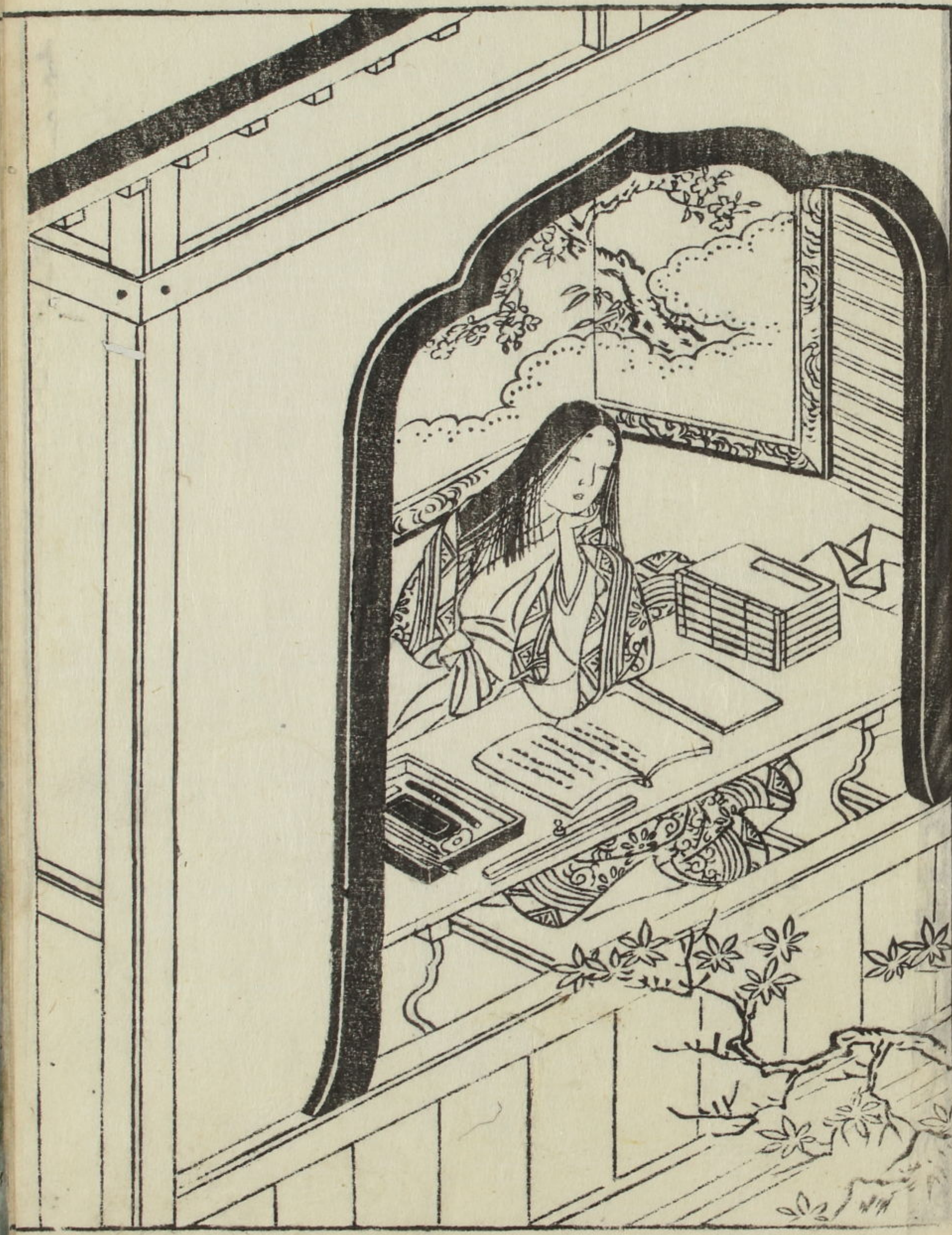


漁父
分浦
寒
釣
晚
松
牧童
笛





野^ノ酌^{シヤク}
 茶^{チヤ}葉^ハ
 露^ロ
 卯^ウ時^ジ
 山^{サン}畦^ケ
 甲^カ日^{ジツ}
 花^{ハナ}
 風^{カゼ}
 稻^{イヌ}



いづこか
 泉 飛雨洗 聲 聞 夏 葉 落 風 吹
いづこかの
 色 相 秋

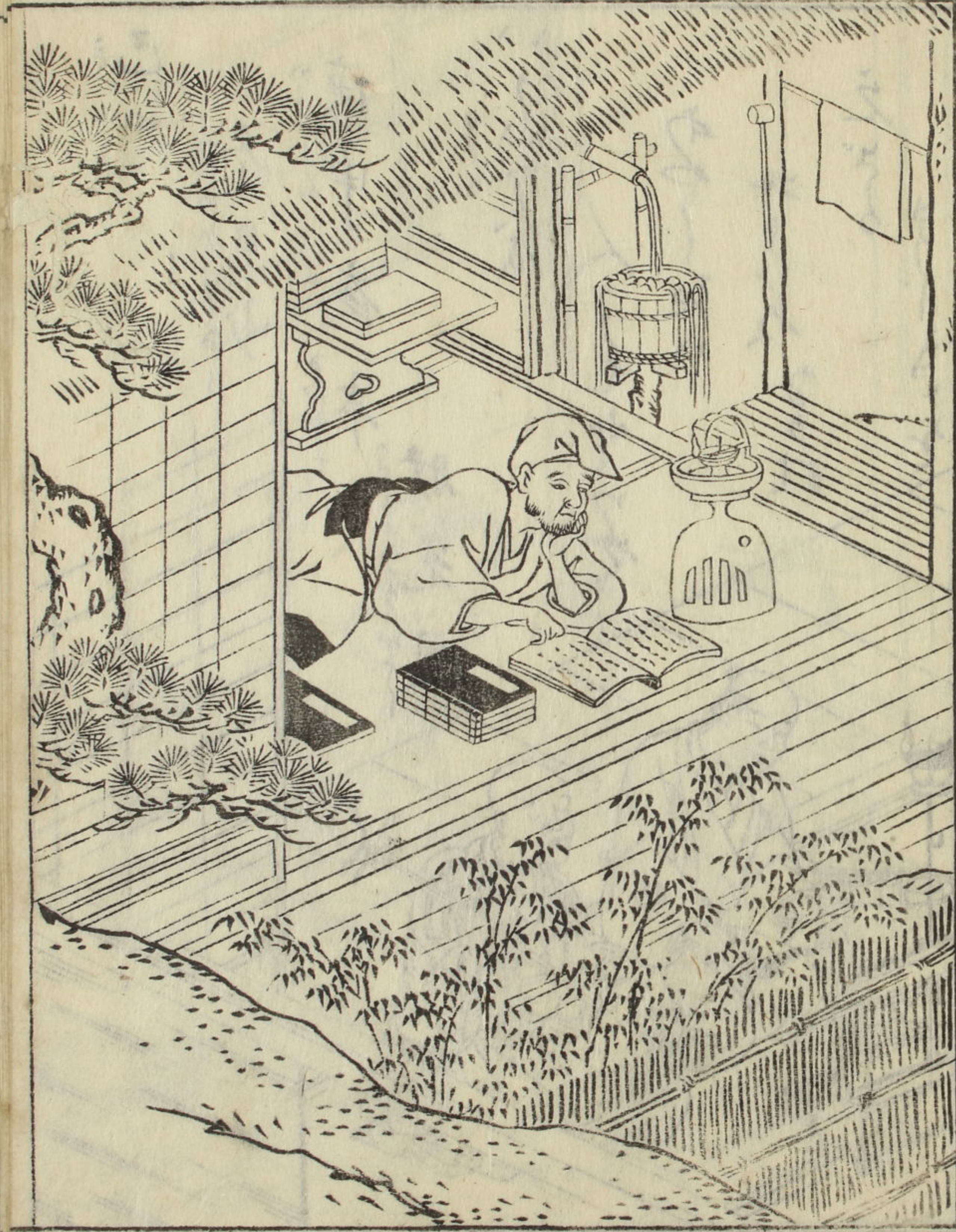
夕暮の 入 おろろ け 露 ぞ ふ
 夕も くれぬと 暮 ぞ
 うね 姿

切徳



十方佛土中以西方
 蓮臺之
 間雖下品夜足
 極楽
 ところ
 女々り





鶴翁つるのおん

閑處見ひらけのまへ

君子きんし

書卷しよゑん

展時ひらけとき

逢あひ

故人こじん

吟詠ぎんえい



己酉年終

冬のいすまゝ

庚申夜半

曙光遅

いふか紙

人よもやりせ

わやうたの

押らぬころれ

えごり

まごきを

雌黄
自口
吟
赤
寒玉
一
勢



雄
左腰
援
則
秋
君
尺
三





出^{いづ}之^の 清^{きよ}光^ひ
 夏^{なつ}日^ひ 思^{おも}蓮^{れん}
 袖^{そで}見^み 穿^く水^{みづ}
 紅^{べに}艶^{あざ} 之^の



秋^{あき} 夜^よ 待^{まち} 月^{つき}
 望^{のぞ} 絶^た 月^{つき}



是
同



翠帳紅圍

万幸之

禮法

雖異

舟中

浪

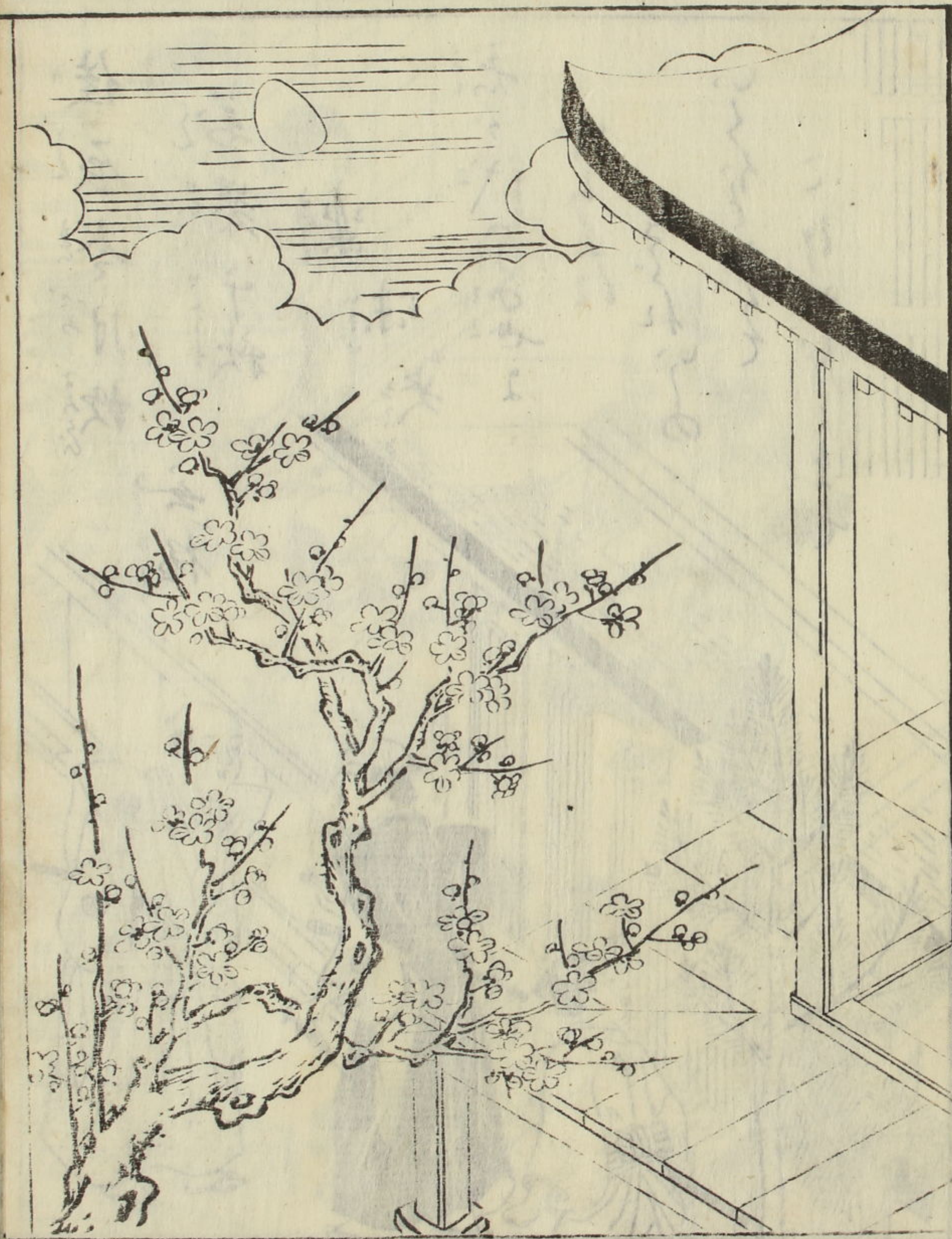
上

一

之

飲

會



金谷 醉^{まどろ}死^し之地^ち

花^{はな}每^{ごと}春^{はる}自^ら而^も不^た歸^らず

南^{なん}棟^{どう} 習^な月^{つき}之^の人^{ひと}

月^{つき}与^と秋^{あき}

期^き而^も

身^み

何^{なに}

去^さ



佳辰今月飲
 第茶千秋
 楽
 味
 尖
 君が代いふせよ
 やらた
 されいもの
 いろはとらうて
 こけねむとまで

五極

花洛畫工

文華堂

西川自得叟祐信



寛保四甲子年正月吉日

京都書林

京寺町通松原下町

菊屋森兵衛板

樞中

之月

